

| |
|----------------|
| 交通臨海部活性化特別委員会 |
| 令和4年4月19日 |
| まちづくり推進部 資料13番 |
| 所管 都市計画課 |

東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022（一部抜粋）について

1 趣旨

東京都は、令和3年4月に「『未来の東京』戦略」の主要プロジェクトのひとつである「東京ベイ eSG プロジェクト」(Version1.0)を策定した。これを踏まえ、未来の都市像からバックキャストした2040年代のベイエリアを実現するための行政の取組や民間誘導の方策を示す実行戦略である「東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022」(令和4年3月)が策定されたので、主に大田区に関連する部分について報告する。

2 東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022 の概要

別紙のとおり

3 その他

東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022 の本編については、東京都都市整備局のホームページに掲載されている。



東京ベイeSGまちづくり戦略2022について

～未来から選ばれる都市を創る～

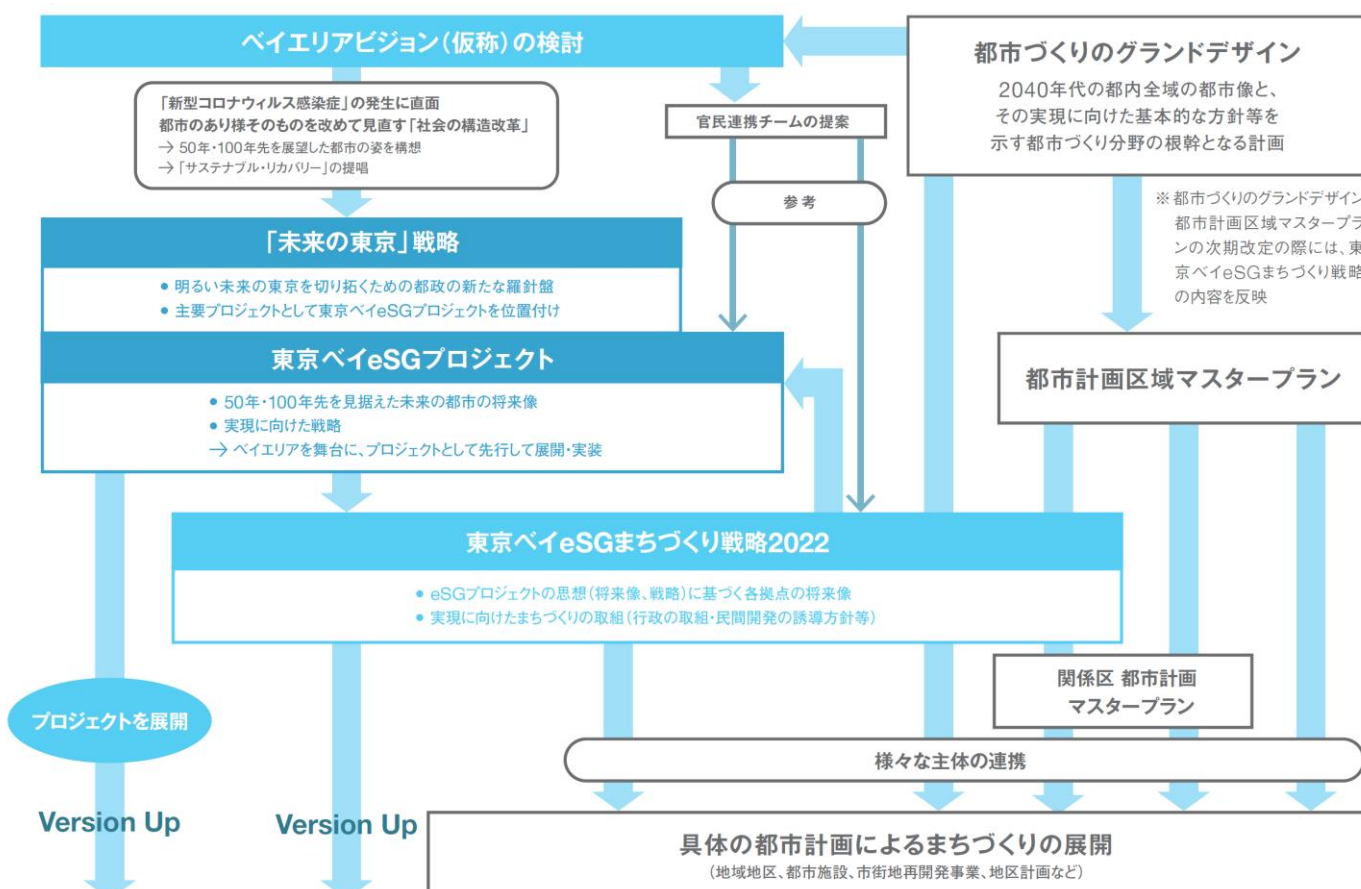
About
Tokyo Bay eSG
Urban Development
Strategy 2022

都は、2021年4月に「臨海副都心」と「中央防波堤エリア」を舞台として50年・100年先の未来の都市像を描いた「東京ベイeSGプロジェクト」(Version1.0)を公表した。

今般策定した「東京ベイeSGまちづくり戦略2022」は、「ベイエリア全域」を対象エリアとしており、eSGプロジェクトの具現化を下支えし、未来の都市像からバックキャストした2040年代のベイエリアを実現するための実行戦略である。

東京2020大会が成功に終わり、新たなステージへと移る東京の都市づくりについて、ポストコロナを見据え、グリーンとデジタルを基軸として、「都市づくりのグランドデザイン」を踏まえ、サステナブル・リカバリーの考え方に立脚した次世代の都市づくりを進めていくための行政の取組や民間誘導の方策を示している。

※eSGとは、本来の「eSG」(環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance))の概念に加え、eには、生態学などのエコロジー、経済のエコノミー、画期的・革新的のエポックメイキングの意味を含め、さらにはSとGには、東京の礎を築いてきた偉大な先人である渋沢栄一や後藤新平のイニシャルの意味を加えて、その精神を受け継ぐ想いも込められている。



戦略・取組の記載の特徴

【特徴1】 主要施策

有識者の意見、提案など、50年・100年先を見据えた2040年代のベイエリアのあるべき姿、今後の20年～30年間で取り組むべき都市づくりの方向性を反映している主要な取組を記載。

【特徴2】

こどもの目線に立ったまちづくりの観点から、ベイエリア内の小中高生を対象に実施したWEBアンケート結果より、関心の高かったベイエリアへの希望や大切にしたいことについて、メダルの数で表現し、その実現に向けた取組が分かるように記載。

【特徴3】 A B C

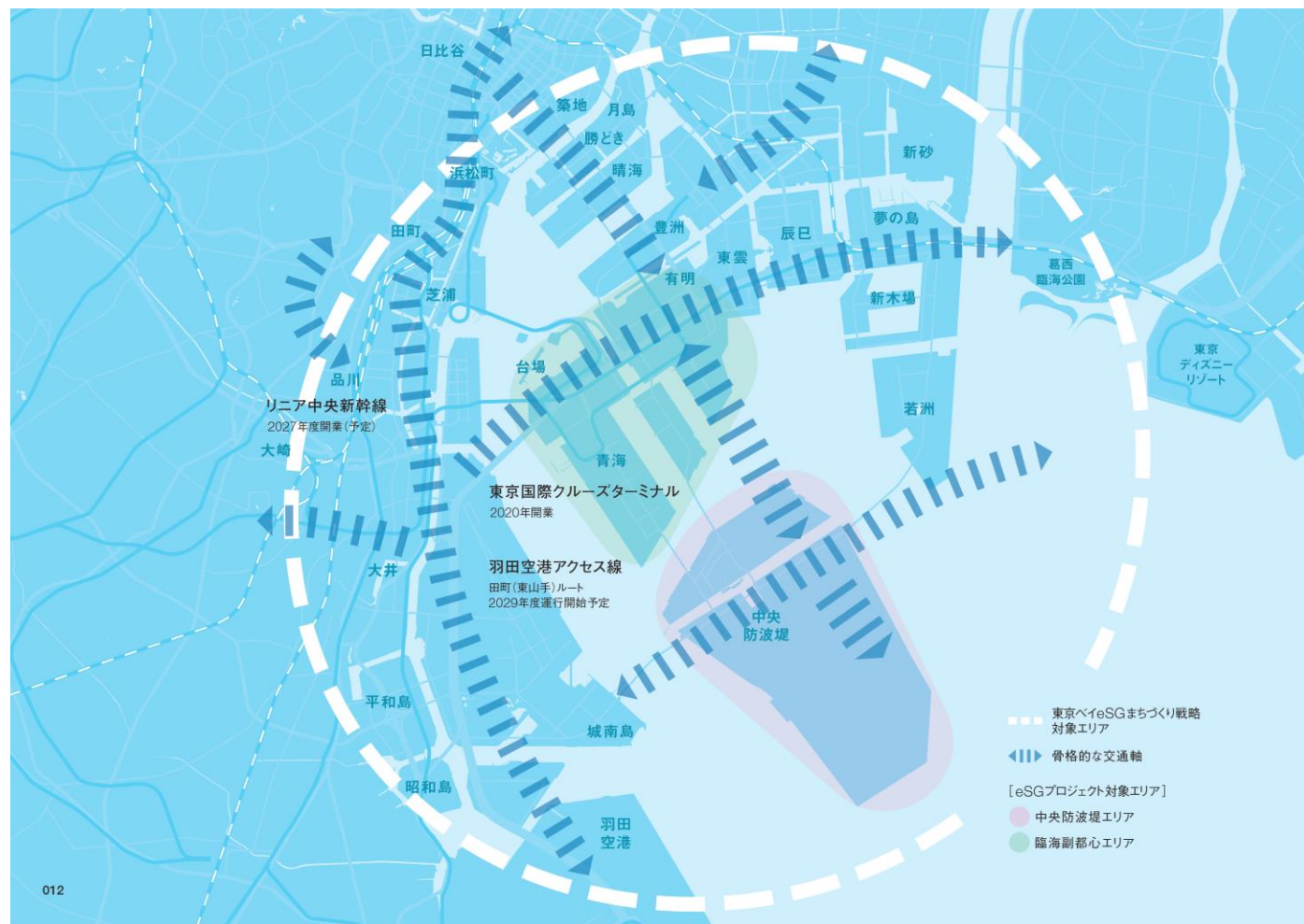
まちづくりの実行戦略として、各取組について実現を目指す時期を示す区分A～Cを明記(区分の詳細2章に記載)。

【特徴4】 T

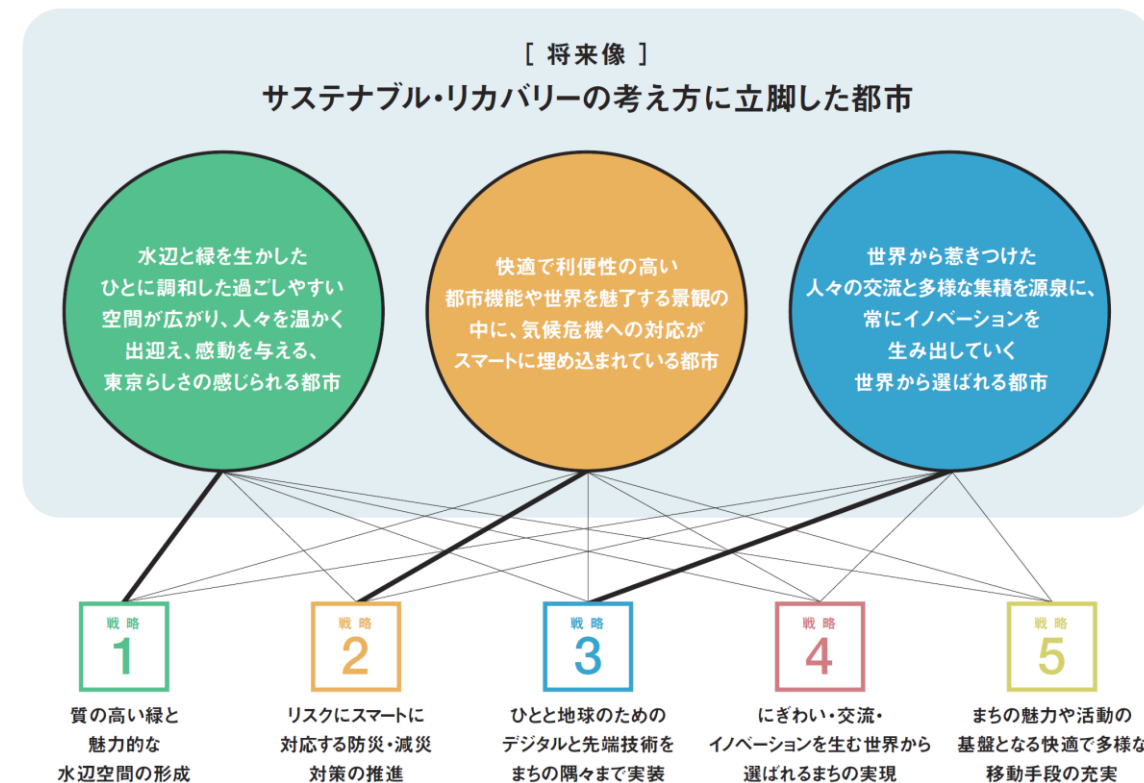
東京2020大会の様々の成果を都市のレガシーへと発展させ、未来につなげていく取組を明示。

【特徴5】

ゼロエミッション東京戦略で掲げる6分野・14政策に関連するCO2の排出削減、気候変動被害の回避・軽減を図る取組を明示。



未来の東京の実現に向けた ベイエリアの将来像



まちの魅力や活動の基盤となる 快速で多様な移動手段の充実

主要施策 [鉄道ネットワークの充実強化] 🏆🏆

① 羽田空港アクセス線の新設

機能拡充を図る羽田空港と国際競争力強化の拠点である区部中心部や新宿、臨海部等とのアクセス利便性の向上が期待される羽田空港アクセス線について関係者との協議・調整を加速(田町(東山手)ルート)2029年度運行開始予定) **A B**

⑤ 新空港線の新設(蒲蒲線)

東急東横線、東京メトロ副都心線などとの相互直通運転を通じて、国際競争力強化の拠点である新宿、渋谷、池袋等や東京都北西部と羽田空港とのアクセス利便性の向上が期待される新空港線の事業化に向けた関係者の取組を更に加速 **B**

[道路ネットワークの充実強化]

外環(東名高速～湾岸道路)

「東京外かく環状道路(東名高速～湾岸道路間)計画検討協議会」における議論も踏まえ、羽田空港へのアクセス性を確保しつつ、東名高速～湾岸道路間の計画の早期具体化を促進

7 第二東京湾岸道路 主要施策

三環状道路などと一体的な道路ネットワークを形成し、都県間の広域的な交流連携を促すとともに、湾岸エリアの交通混雑を緩和する路線。中央防波堤地区の土地利用が進むとともに、湾岸道路(国道357号)から内陸側については、生活関連物資等の流通を支える港湾の区域等を除き、都市的な拠点開発を促進

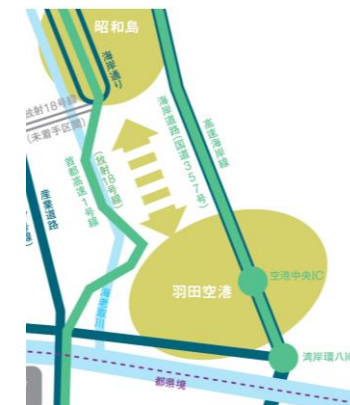
国道357号

東京湾岸の広域的なネットワーク形成のみならず、国際化が進む羽田空港へのアクセス向上や東京港の更なる物流円滑化に寄与する多摩川トンネルを整備促進

今後も進められていく東京湾岸エリアの開発に伴う交通量の増加に対応する辰巳交差点、東雲交差点、有明二丁目交差点の立体化する事業を促進

11 羽田空港周辺地域における道路網の拡充

羽田空港の更なる機能強化と国際化に向けた取組が進められており、首都圏の活力を高める国際的な拠点空港へのアクセス性向上に向け都市計画道路の在り方について調査を推進

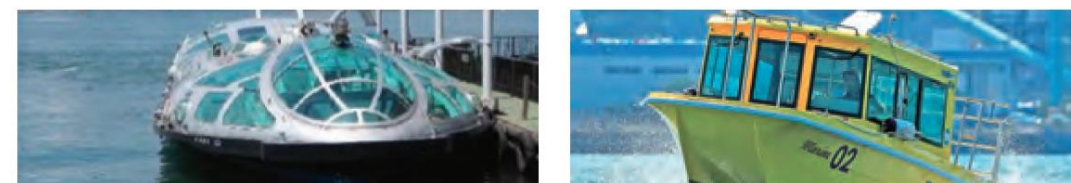


[舟運の活性化、港湾・空港などの都市基盤の整備、BRT、地区内交通の充実など]

12 舟運 主要施策

通勤・観光の利用拡大や公共船着場の開放、バリアフリー化、船客待合所の整備など、舟運の活性化に向けた取組を着実に推進

複数の航路で通勤等を目的とした新規航路開拓に向けた取組等を実施し、更なる利用者の拡大や、水の都東京の発信を推進



14 羽田空港

ビジネスジェットの受入体制強化など、空港の機能拡充を通じて増大する航空需要への対応を強化



出典:国土交通省公表資料



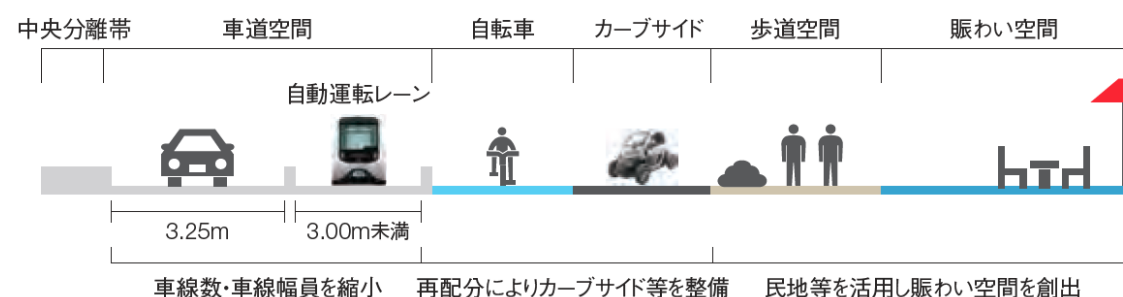
出典:日本ビジネス航空協会

自動運転社会を見据えた都市づくり

自動運転車の普及とともに、路肩側の車道空間であるカーブサイド、自転車通行空間及び歩行者空間の創出を実現

カーブサイドでは、地域のニーズや時間帯に応じて荷さばき車両や超小型モビリティ等のシェアリングサービスの乗降スペース、歩行者の滞留空間や賑わい空間等で多目的利用ができる空間として活用

[将来イメージ]



物流ネットワークの形成

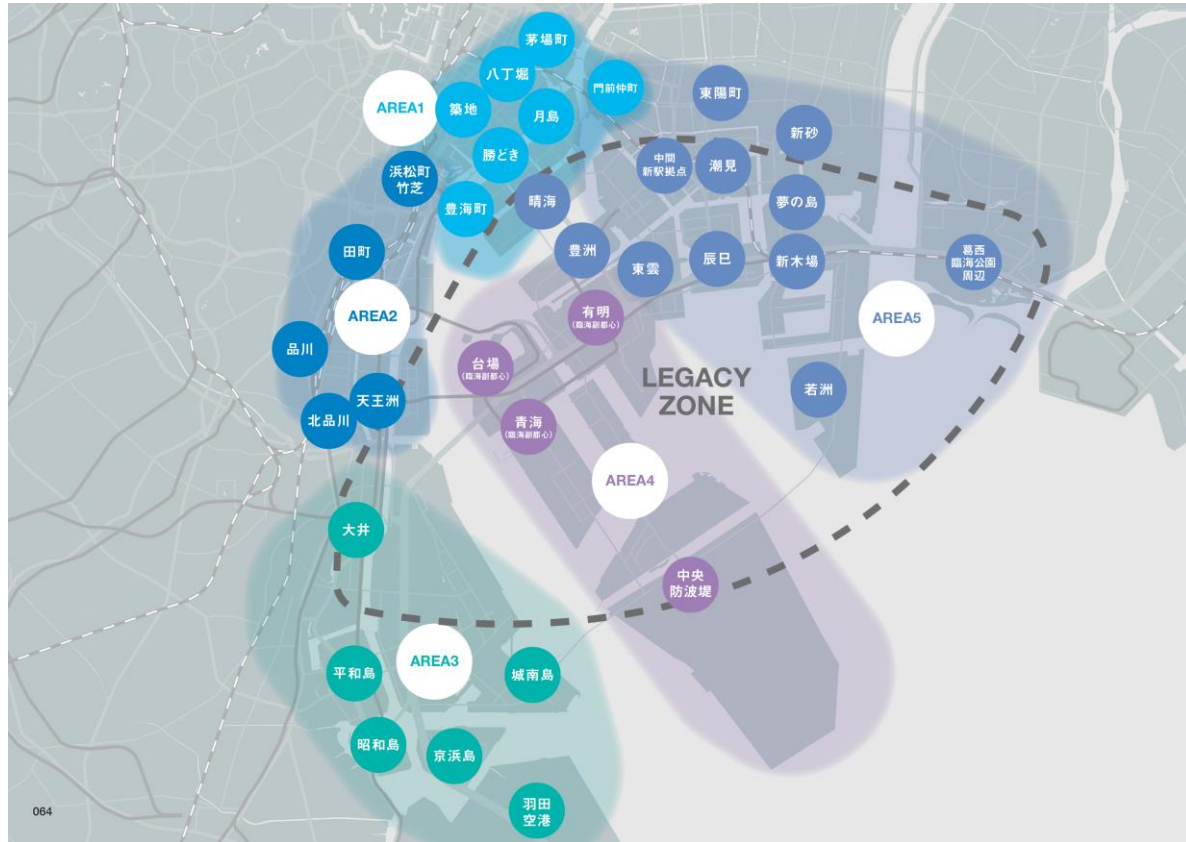
中央防波堤外側・新海面処分場における大水深岸壁を有した新規コンテナふ頭の整備や、既存ふ頭の再編、AI・IoTなどの最先端技術を活用した物流の効率化により、船舶の大型化や増大する貨物に対応

内貿ユニットロードターミナル・フェリーターミナルの機能強化や、トラック輸送から内航輸送、湾内や河川を利用したはしけ輸送、鉄道輸送など、環境にやさしい輸送モードへのモーダルシフトを促進

物流施設の機能更新

老朽化した物流施設が多く立地するエリアで、物流機能の高度化や大規模化などのニーズに対応する計画的・一体的な機能更新に向けた取組を促進

戦略の実行によって実現を目指す 個別の拠点の将来像



京浜島・昭和島・城南島・平和島

実現のための戦略 1 3 4 5

- 最先端で高度な産業技術や工業などの施設の立地が進み、羽田空港に近接する立地特性を生かした産業・ビジネス空間が創出される際立った個性やポテンシャルを有する地域を形成
- 流通業務地区では、周辺のまちづくりと調和を図りながら、流通業務施設の機能更新・高度化・効率化が進められ、新しい時代のニーズに応える物流拠点を形成
- 公園、運河、海辺やその周辺では、水辺の散策路やスポーツ施設の整備などが進み、ゆとりがあり、スポーツに親しめ、交流の生まれる地域を形成

AREA 3

世界や日本各地とつながる羽田空港に近接する立地特性を生かすエリア

羽田空港周辺

実現のための戦略 3 4 5

- ビジネスジェットの入体制強化など、空港の機能拡充を通じて増大する航空需要への対応が強化され、羽田空港アクセス線や新空港線、舟運、深夜早朝アクセスバスなどによる多様なアクセスが確保
- 空港と隣接する地区では、先端・文化産業、情報発信機能、宿泊施設などが高度に集積し、東京と世界や日本各地がつながり、活発な交流が生まれる拠点を形成
- 空港施設や使用車両のCO₂削減が推進され、再生可能エネルギー活用が加速

AREA 4

東京ベイeSGプロジェクトを推進し、「自然」と「便利」が融合する都市を先導するエリア

中央防波堤

実現のための戦略 1 3 5

- テクノロジーの大規模な実験エリアの創出に向けて、法的・技術的な制約を踏まえながら、自由度の高いプロジェクトを展開。また、将来的には第二東京湾岸道路の広域的なアクセス利便性を生かし、将来的な課題解決に資する最先端の研究や新たな技術開発に取り組むスタートアップ企業やショーケース機能が集積した新たなイノベーションを創出する一大拠点が形成し、「自然」と「便利」が融合する持続可能な都市を実現する取組が推進され、ベイエリアの特長である水辺や緑、大会レガシーも活用し、安らぎやワクワク感を体感でき、みんなが行きたくなるフィールドを実現
- 港湾・物流エリアにおいては、先端テクノロジーの実装など中央防波堤埋立地としての一体性も確保しながら、コンテナターミナルでの太陽光発電や荷役機械・トレーラー等への燃料電池の導入、デジタル技術による荷役の効率化を通じた環境負荷の低減などによるカーボンニュートラルポートを実現